



JAC北九だより

No. 103 (令和 6 年 第 1 号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行：公益社団法人 日本山岳会北九州支部
支部長 竹本 正幸

事務局：福岡県北九州市小倉南区志徳1-1-29-104

清家 幸三方

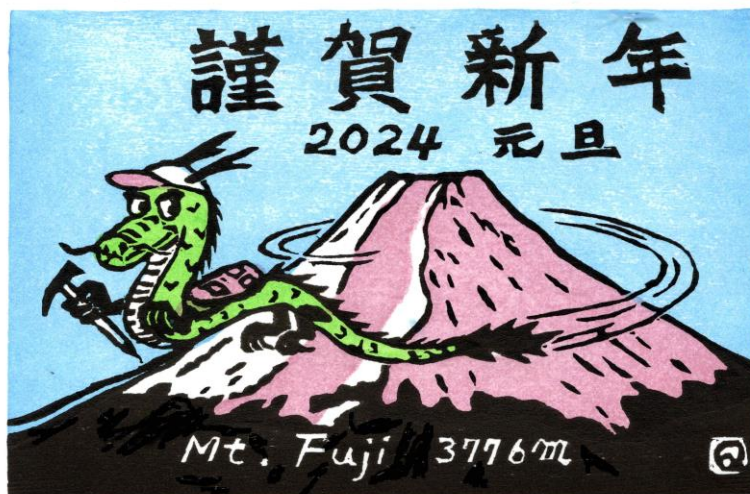
TEL 自宅 093-963-2160

携帯 090-8664-4411

編集人：橋川 潤

印刷：山口県山口市水の上町 2-25

内藤製本所



木版画

伊藤久次郎 作

令和 6 年新年のごあいさつ

北九州支部長 竹本 正幸

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、支部活動にご協力いただき誠にありがとうございます。本年もなお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス 5 類への移行により行動制限が緩和され、近年は若者の登山者が増加しています。現在の支部は、平均年齢 71 歳、50 歳代以下の会員が皆無に等しい。今後は、若い会員を増やし技術や経験を継承していくことが最大の課題です。昨年から入会後のフォローとして、新入会員を対象に座学と実践を含めて 5 回の講習会を実施しています。入会パンフレットを活用して若い人に積極的に入会を呼びかけていきましょう。

人生 100 年時代に対応した対策も必要です。100 歳になっても山に登れる。そんな人生は最高です。支部で実施しているポレポレ山行（軽登山）にたくさん人が参加できるように対応します。

「みんなの山岳会とは」一部の会員だけの活動でなく、少しでも多くの会員が参加できるような活動にしていく。山行計画や行事の内容をタイミングよく広報し、登りたい山のアンケートなどニーズに合った登山を計画します。また山岳会の外

にも目を向けてボランティアによる山の環境保全・安全登山への啓蒙活動などもやっていきます。平尾台のセイタカアワダチソウ除去は、今後も続けていきます。

昨年夏は多くの遭難が発生し遭難件数、遭難者とも過去最多となっております。皆が楽しく、安全に登山できるためには「自立した登山者」の育成が支部の重要課題だと思います。講習会や山行に参加して知識・技術・経験値を充実させ、山の色々なリスクにも対応できる山岳会を目指します。リーダー養成講習会への参加、指導者の資格取得などを進めていきます。

支部の逼迫した財政については ①会員の増加 ②経費の削減 ③事業の検討 ④寄付等を模索しています。

「山に行くこと」「地道に活動を続けること」そうすれば門をたたく人もでてくると思います。組織の充実を図り役員の負担軽減を進めながら、山岳会の発展のため役員一同がんばります。

最後に会員の皆様のご多幸を祈念し、また北九州支部がますます発展する年となりますようご協力をお願いします。

第 7 回 槇有恒 碑前祭

13532 馬場 基介



槇有恒碑前祭会場での参加者集合写真 (写真 伊藤久次郎)

令和 5 年 10 月 28 日、北九州市門司区風師山風頭で、第 7 回槇有恒碑前祭が盛大に執り行われました。特に今回は、日本山岳会創立 120 周年記念事業の一つである「引き継がれる山岳祭」に全国 13ヶ所のうちの一つに選ばれた最初の開催となり、本部から桐生恒治副会長、坂井広志プロジェクトリーダー、森 武昭元会長および所属の「山想倶楽部」9 人、山本修司毎日新聞西部本社代表、地元山岳関係者や北九州支部会員を含め 40 人余りの参加を頂き開催されました。

8 時 30 分、集合場所の JR 門司港駅で谷延正夫門司区長の見送りの中、出発。途中、最近発掘された旧門司駅の遺構、赤煉瓦の九州鉄道記念館前を通り登山口へ衣服調整後登山開始。途中 11 月 14 日に開通 50 周年を迎えた関門自動車道「関門橋」の雄姿を望みながら登山。10 時前に全員山頂に到着しました。

10 時、式典を開始。竹本正幸北九州支部長より関東・関西等各方面から出席していただいた方々へのお礼、碑前祭開催までの歴史経過などの説明がなされました。

献花、お神酒奉納の後、引き続きご来賓の皆様の中から桐生恒治副会長、山本修司毎日新聞西部本社代表、小田幸雄門司歩こ



竹本支部長挨拶 (写真 伊藤久次郎)



桐生本部副会長と坂井 PL (写真 伊藤久次郎)

う会会長から碑前祭に関するそれぞれの係わりやエピソードを含めた御祝いのお言葉を頂きました。続



毎日新聞に掲載された「雪山賛歌」斉唱 (毎日新聞より)

いて、参加者全員で、「雪山讃歌」を斉唱し式典を締めくくりました。碑の前で記念写真を撮り山頂での式典を終了しました。

正午から会場を中華料理店「門司倶楽部」に移し懇談会を開催。会場には支部で収集した槇有恒に係る新聞記事、写真、色紙等の関係資料を展示し参加者の皆様の賞讃を受けました。懇親会では坂井広志プロジェクトリーダー、森元会長を始め沢山の方々のメッセージを頂き盛り上がりしました。

最後に野副・丹下・町元支部員のウクレレ倶楽部演奏で「いい日旅立ち」等を斉唱し幕を閉じました。次回の盛会を祈念して！

追記：山想倶楽部の皆様は、翌日も山口・北九州の観光をされたとのことで行事による PR 効果もありました。

出席者：桐生恒治（本部副会長） 坂井広志（プロジェクトリーダー） 森武昭（元会長・神奈川支部） 吉永英明（元副会長） 高橋聡（山想倶楽部代表代行） 伊藤禎洋（京都・滋賀支部） 小笠原辰夫（神奈川支部） 中瀬龍男（大阪在住） 山田茂則（東京在住） 斎藤悦子（大阪在住） 竹内晴美（東京在住） 山本修司（毎日新聞社西部本社代表） 小田幸雄（門司歩こう会会長） 柳原武志（風師山早朝登山会） 柳原寛美（同）



ウクレレ演奏 (写真 伊藤久次郎)

北九州支部 21 人：園川陽造 日向祥剛 原広美
伊藤久次郎 馬場基介 関口興洋 丹下洽
丹下香代子 竹本正幸 竹本加代子 森本信子
縄田正芳 町元里香 清家幸三 花田拓二

横山秀司 野副勇 橋川潤 網塚陽子 久保正志
田和瀬修
一般参加者 5 人

図 書 寄 贈

第 7 回 榎 有恒碑前祭に出席された桐生 恒治日本山岳会副会長から、榎 有恒関係の記事が載った図書と資料を、同じく森 武昭元会長（北九州支部会友）から榎 有恒の図書 2 冊の寄贈を受けましたので紹介します。

1 桐生 恒治副会長寄贈の図書と資料

○ 図書名

- ・「越後山岳 第 14 号」2022 年 日本山岳会越後支部発行
発行者 桐生 恒治（当時越後支部長）（写真 1）

○ 資料名

- ・「榎有恒関係資料」2022 年 3 月 長岡新聞の連載記事
（写真 2）

- ・「日本山岳会を創った男 高頭仁兵衛の生涯」
越後支部長 桐生 恒治 著

2 森 武昭元会長寄贈の図書

○ 図書名

- ・「近現代日本と榎家 受け継ぐグローバル思想」 榎卓^{たかし} 著
2018 年 東銀座出版社発行（写真 3）
- ・「山行」榎 有恒 著 2012 年 中央公論文庫発行（写真 4）

榎有恒関係の図書や資料の寄贈、大変有り難うございます。北九州支部のルーム図書として保管したいと思いますので、支部の会員は大いに活用お願いします。（伊藤久次郎）



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4

令和 5 年 9 月 23 日(土) ~ 24 日(日)
第 36 回全国支部懇
4 年ぶりの全国支部懇談会に参加して
14852 竹本 正幸

第 36 回全国支部懇談会が 9 月 23 日~24 日に水上温泉のホテル「坐山み なかみ」にて開催されました。全国から約 160 人の会員の皆さまが参加。2019 年の栃木支部主催で行われて以来の全国支部懇となります。

講演のテーマは「今、谷川岳で考える安全登山」。講師の伊藤武氏は、群馬県警察谷川岳警備隊長、通算 18 年間警備隊で山岳遭難者の救出や遭難防止活動にたずさわった方です。今年は、全国的にも遭難が多く、遭難の内容は、道迷いや体調不良が特に多い。過去の遭難救助等についても実体験にもとづく遭難事例に耳を傾けました。

懇親会はアトラクションの「三国太鼓」の演奏で幕を開けた。群馬支部の根井康雄支部長の歓迎の言



懇親会「三国太鼓」の演奏（写真 榎俊一）

葉。その後、橋本しおり会長のご挨拶と続き、桐生副会長の乾杯で懇親会の始まりです。

山の名前が付く日本酒（谷川岳、赤城山、榛名山、妙義山、浅間山、尾瀬の雪解け）が準備され、さらに各支部が持ち寄った全国の銘酒で、酒三昧の歓談を楽しむことが出来ました。次期開催神奈川支部の込田信夫支部長の挨拶で締めとなりました。

24 日(日)

谷川岳の岩場を望む山麓ハイキングに北九州支部は 6 人全員参加しました。



マチガ沢にて(写真 横山秀司)

ホテル 8:00 出発で谷川岳インフォメーションセンターまで 2 台のバスで移動。センターからは徒歩で西黒沢～マチガ沢～一の倉沢(出合)往復 2 時間コース。

谷川岳の岩場は、剣岳、穂高岳と共に日本三大岩壁として知られています。マチガ沢で横山先生の地形についての説明がありました。

一の倉沢出合いのトイレは、渇水のため便器洗浄用のペットボトルの水が全員に配布されました。



一の倉沢出合(写真 竹本加代子)

一の倉沢出合で写真撮影、約 120 人の集合写真は大岩壁をバックに迫力があります。復路は来た道をセンターまでそれぞれ自由に歩いて帰りました。谷川岳山岳資料館に立ち寄り、昔の登山用具等を懐かしく見ることができました。センターに帰って、美味しい鳥飯弁当をいただき、12 時 30 分解散となりました。

参加者 6 人： 日向祥剛 榊俊一 竹本正幸 竹本加代子 町元里香 横山秀司

令和 5 年 7 月 1 日(土)～4 日(火)

日本山岳会青森支部

創立 30 周年記念行事に参加して
13643 関口 興洋

2023 年 7 月 1 日、九州地方が大雨の影響を受けている中、福岡空港から仙台空港行きの直行便が無事飛び立つことが出来るのか心配しながら、小倉から早朝の山陽新幹線で博多に向かった。仙台行き直行便が予定通り出発したので一安心。仙台から東北新幹線に乗り継ぎ会場の八戸プラザホテルに着いたのは、記念式典が始まる寸前であった。

(第一部) 青森支部創立 30 周年記念の関連行事

記念式典の参加者名簿を見ると、本部から橋本会長、古野前会長、神崎元副会長、重廣元副会長ほか総勢 130 余名の名前が列挙されており、誠に壮観である。橋本会長のお祝辞、須々田青森支部長のご挨拶など記念式典の行事が予定通り終了し、引き続き特別講演が行われた。演題は「八戸の風土と歴史」、講師は八戸縄文保存協会の古舘光治会長。青森県の津軽地方と八戸地方との気風の違いなど初めて聞く興味深い内容でした。

休憩時間を挟んで 18:30 からプラザホールで記念祝賀会が開催された。18 テーブルに分散した各自の指定席を探しながら着席。主催者、来賓の挨拶が終わり乾杯の音頭と共に参加者の熱気で一気に盛り上がり、旧交を温める輪があちこちでできる。他支部から差し入れの祝い酒も振舞われ賑やかな祝賀会となった。

7 月 2 日 晴

記念行事は<Aコース> 階上岳(ハカミダケ)山行と<Bコース> 蕪島・種差海岸トレッキングコースの二通り。

原さん、井上さんは A コース、関口は B コースを選択。目的地に向かう前に朝食を八戸港の朝市で摂る。



記念山行階上岳
(写真 原広美)

6時半ごろ着いたが、既に屋台は先客で大賑わい。魚介類が中心であるが、先ず目を付けたのが、夏でも食べられる岩ガキの蒸籠蒸し。大型の牡蠣を 4 コ注文し酢醤油で味わう。蒸し牡蠣は初めて食べたが、なかなか美味しい。次は青森名物のリンゴを包んだ春巻きを初めて食べたが、これまた実にうまい。

朝食後、朝市の会場からホテルのバスで各コースへ移動。以下Bコースの概要を報告する。

最初の訪問地は蕪島神社。ここはウミネコの繁殖地として有名であるが、その数の多さと賑やかな鳴き声にビックリ。上空を飛んでいるウミネコの糞を浴びるのではないかと内心、冷や冷や。早々に切り上げ、「みちのく潮風トレイル」のトレッキングを開始。正式名称は東北太平洋岸自然歩道、全長1,025^歩、八戸市から福島県相馬市まで。ロングトレイルとしては日本最長。環境省をはじめ、関係自治体、民間団体、地域住民の協働により、段階的に開通を重ねながら、2019年(令和元年)6月9日に全線開通した。

出だしは海岸際を歩くが、徐々に高度を上げ断崖を見下ろす道となり、眼下の岩礁地帯では小舟をベースにして潜りの漁をする様子が眺められる。獲物はウニとかアワビであろうか？南下するにつれ、花の群れが現れてくる。特にノハナショウブの群落が見事である。

途中の休憩ポイントからトレイルをはずれ車道に出ると東山魁夷の記念碑がある。彼の出世作品である有名な「道」のモチーフとなった場所である。

休憩ポイントで青森支部の事務局長をされている中村 仁さんの車に3人乗せてもらい種差海岸まで送ってもらう。天然芝におおわれている美しい海岸で三陸復興国立公園に指定されている。三陸復興国立公園は、東日本大震災により被災した三陸地域の復興に貢献するために2013年(平成25年)5月に創設された新しい国立公園である。

中村さんの案内でビジターセンターを訪れスタッフから館内の展示物の説明を受ける。

車先行組の堀井 弘さん(秋田支部顧問)と気持ちの良い芝生の上に座り込み、三陸名物の雲丹飯弁当を開く。油断しているとウミネコの標的になるので要注意。昼食後、迎えのバスでプラザホテルに向かい、ここでAコースの参加者と合流し解散となる。

(第二部)

A班の二人と合流し、大久保 勉さん(元青森支部長)がリーダーとして引率する下北探勝会に参加。探勝会でチャーターしたマイクロバスで下北半島巡りに出発。

次の目的地は寒立馬のいる尻屋崎。津軽半島方面は数回、訪れたことがあるが下北半島は初めてなのでワクワクした気分になる。斧の取っ手の部分に当たる大湊線沿いに陸奥湾を左手にかいまみながら北上。ゲートの手前でガイドの方と合流し、17時の閉

門時刻を気にしながら太平洋に突き出た尻屋崎へ到着。立派な灯台が設置されているが今日は時間がないので見学はできない。それでも太平洋に面する本州北端の僻地に立つと、学生時代、北海道の襟裳岬を初めて訪れた時(昭和33年夏)以来の感慨に浸る。ゲートをぎりぎりに通過し、観光用に放牧されている寒立馬の一群を遠くから眺めながらガイドの説明に聞き入る。以前は柵など無く自由に馬に近づけたが、心無い観光客の振舞いで事故が発生したため、柵を設け馬に近付けないようにしたとのこと。

今日の宿は大湊駅の側にあるフォルクローロ大湊。チェックインした後、夕食の会場である隣の「京華」へ移動。下北探勝会参加者の全員が揃い顔合わせを行う。

7月3日 曇天

今日は下北半島の核心部である恐山を巡る。健脚組とポレポレ組に分かれての行動となる。北九州支部の3人はポレポレ組に入って行動した。健脚組を見送った後、釜臥山展望台駐車場に着く。この頃から、雨模様となる。整備されたなだらかなコンクリートの階段を上ると途中に開拓者の顕彰碑がある。私はここで引き返したが、原さんと井上さんはリーダー・ドームのある一等三角点、釜臥山(878[㍎])山頂に到る。雨がひどくなったので山頂でゆっくりもできず、早々に下山した由。恐山の駐車場に着くと雨も上がり、大久保さんから境内の説明を受け、健脚組が戻るまで自由行動となった。お寺の境内入域料金500円を払い山門をくぐると、直ぐ近くに無料の男女別温泉入浴棟がある。境内と言っても火山ガスの発生地帯であるため、樹木の生育も限られ、荒れた土地が宇曾利山湖まで続いている。周回路のところどころに慰霊碑やお地藏さんが安置されている。一部は写真などで観た光景であるが、現地で見ると環境、地形、地質、植物相などすべてにわたり異質な世界である。まさに「百聞は一見に如かず」

午後になると宇曾利山湖の彼方に聳える大尽山を覆っていたガスが時々切れて山容がわずかに望まれる。広い境内を散策したあと、温泉棟に立ち寄り湯舟を独占し疲れを癒す。お寺の境内で源泉かけ流しの温泉に入れるなんて別世界である。

今宵の宿は津軽海峡に面した下風呂温泉の鄙びた旅館であるが地元の魚介料理を堪能した。

7月4日 快晴

今日の最初の目的地は仏ヶ浦。当初の計画は陸上からの往復であったが、お天気がよく穏やかな海なので佐井から観光船で津軽海峡の海上ルートを往復

することになった。仏ヶ浦の棧橋で下船し、海蝕奇岩のそそり立つ景観をゆっくりと見物でき幸運であった。

佐井に戻り次の目的地、半島北端の大間に向かう。お天気に恵まれ、対岸の函館～恵山が一望できた。大間は本マグロの水揚げ港として有名になったが、最後の仕上げはマグロ丼を味わうこと。予約者 11 人でサンホテル大間に向かう。

お値段に値する内容に満足し東北新幹線八戸駅へ直行。ここで下北探勝会に参加した皆さんとお別れし仙台に向かった。仙台で一泊し翌日、榎 有恒が仙台二中時代に親しんだ泉ヶ岳(1172 ㍎)に登るためである。

7 月 5 日 曇り

泉ヶ岳は仙台市の北西約 20 ㍎、奥羽山脈の船形山(1,500 ㍎)から南東に続く一峰である。仙台市営地下鉄の南北線終点の泉中央駅で下車。乗り継ぎバスの便が悪いので登山口の泉岳自然ふれあい館までタクシーを利用。コースタイム約 2 時間の水神コース経由の登山道に入る。なだらかな道を辿ると 1 時間で水神の碑に至る。到着したのが 11 時。頂上まであと 1 時間。しかし、頂上まで登り往復すると仙台空港発 16:40 の福岡行き直行便に間に合わないリスクが発生する。残念だが登頂は中止し直ちに引き返すこととなった。余談ですが、往復ともタクシーの運転手と会話したが、榎 有恒さんが仙台の名誉市民で文化功労章を受章されたことも全く知らなかった。中年の方でしたが、仙台市民でも榎さんの功績が継承されていないのかと寂しい気持ちで福岡へ戻った。

参加者 3 人：原広美 井上禮子 関口興洋

令和 5 年 10 月 21 日(土) 自然保護全国集会
2023 年度自然保護全国集会に参加して
16382 横山 秀司

2023 年 10 月 21 日(土)に八王子市高尾町で開催された標記の集会に、自然保護委員長として参加し、支部報告をいたしました。

まず、哲学者の内山節氏による「人と森とのかかわり」と題する基調講演がありました。話は哲学的・心理学的・宗教的であり難解な内容でしたが、「自然との関係が人間をつくり、人間との関係が自然をつくる」、あるいは「自然の気の流れが、人間の気力をつくりだしている」さらに、「われわれは

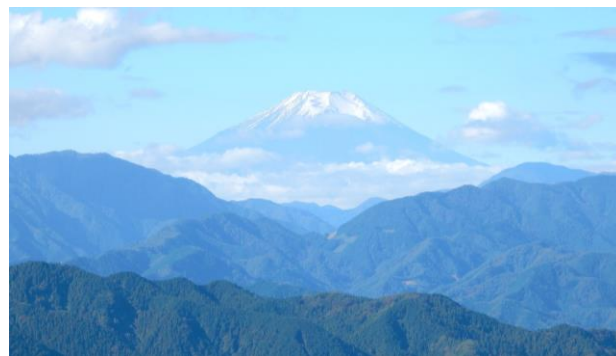
身体の内には、自然や森の生命力や気のながれが存在している」と語ったことが、興味深く心に残っています。山に入ったら大きく息を吸い、自然の気を身体の中に取り込むことが、私たちの心の平癒となることを悟りました。

次いで、各支部の自然保護活動報告がありました。8 支部の活動をまとめてみると、希少植物の盗掘防止パトロールや外来植物の除去活動、また山のトイレ、風力発電、シカによる食害などの問題が提起されました。さらに、積極的な森づくりや希少植物の保護活動を行い、一般募集してその現場での観察会を実施している支部もありました。

北九州支部は、平尾台のムラサキの保護監視とセイタカアワダチソウの除去作業、英彦山の清掃登山とバイオトイレの清掃、山のトイレを考える福岡協議会の活動を報告し、横山が実施した平尾台の Geo トレッキングの概要を紹介しました。

支部の中には自然保護委員会が中心となって、一般市民に対する自然観察会や山岳講座を実施して、公益法人としての山岳会の活動を社会にアピールしています。北九州支部も、会員獲得のためにも支部内の活動にとどまらず、一般市民を対象とした登山や登山教室、自然観察会などを実施すべきではないかと思いました。

翌日は「高尾の森づくり会」が活動をしている森の見学会が予定されていましたが、午後に所用があり不参加としました。そのため、午前中に時間がとれましたので、50 数年ぶりに高尾山に登りました。清滝駅から 6 号路を登ること約 80 分で頂上(599 ㍎)に着きました。展望台からは丹沢・道志山塊の背後に雪を被った富士山を望むことができ、感激。その後、薬王院の伽藍を見学しながらゆっくりと下山をしました。ニュースでしばしば報道されたように、軽装の観光者が多く見られました。



高尾山から富士山を望む(写真 横山秀司)

なお、集会当日に報告した支部は北海道、宮城、東京・多摩、群馬、山梨、越後、関西及び北九州。参加者は本部・支部会員 36 人でした。

令和5年11月15日(水)
山のトイレ・環境を考える福岡協議会
「雲仙トイレ視察山行ー携帯トイレの普及のためにー」
自然保護委員 13533 磯野 文雄

山のトイレ・環境を考える福岡協議会の今回山行は、環境省 雲仙自然保護官事務所 国立公園利用企画官の堀松隆久氏(元マムート社 CEO)の案内を得て、雲仙の成立ちや現状、自然保護活動やトイレの必要性などを学ぶ山行となりました。視察の行程は、妙見岳駅(トイレあり)→妙見岳→鬼人谷→普賢岳→紅葉谷→仁田峠駅へ。その後、「雲仙お山の情報館別館」にて、座学及び意見交換会となりました。山行記録であれば、この行程の詳細を記録・報告することとなりますが、今山行の目的は「学び」ですので、座学や雲仙登山における学びの部分についてご報告いたします。

雲仙は、昭和9年(1934年)にわが国最初の国立公園の一つとして誕生し、その後天草を加えて「雲仙天草国立公園」となりました。

雲仙岳を中央に抱える島原半島は、約40万年前までは火山島でした。約430万年前に、海底火山の噴火により火山島ができ、その後、約50万年前には雲仙岳(雲仙火山)が形成され、約40万年前には噴出物が流れ下って九州本土とつながって半島となりました。現在では、東西に並ぶ小浜温泉・雲仙温泉(地獄)・島原温泉などが有名で各地から観光客を呼んでいます。

さて、残念ながら(国立公園でありながら)このコースには、一つもトイレや携帯トイレのブースはありません。このコースに国見岳を加えて3座を周るとすると、4時間から5時間の所要時間をとられることになります。この間に、排便や排尿(以下「排泄」)を我慢することとなりますが、人によってはかなりの我慢を要することになるのではないで

しょうか。私は、携帯トイレを使って1回排尿しましたし、また、大半の参加者が仁田峠の公衆トイレに行かれました。

写真1と2を見ていただきたいと思います。これは「けもの道」のように見えますが、正規の登山道から逸れた排泄のための「脇道」です。平らで排泄しやすく、人からは見えない所となると、ある特定の場所に集中しがちです。そこに行くと排泄物やティッシュペーパーなどが散乱している光景を、嗅覚で嗅ぎ、視覚で見ることとなります。また、この脇道を登山道と間違えて入り、ミニ遭難騒ぎもあったと聞きました。雲仙ばかりではなく、我々の愛する地元の山でも見かける、あるいは不快な思いをすることはないでしょうか。このようなことから、堀松氏としては普賢岳直下の登り口の平坦部に、携帯トイレのブースがあれば、ずいぶん改善されるのではないかと、とのことでした。今回の視察山行に参加された方々も、同じ感想をもたれたのではないかと思います。

一方座学では、前述の堀松氏からのレクチャーのほか、磯野から簡易携帯トイレテントとトイレシートを利用して、(株)総合サービス社から恵贈された携帯トイレの使い方を伝えました(写真3)。併せて山岳会では、1セットくらいの携帯トイレテントとトイレシートの所有が望ましいのではないかと提案しました。(当会の支部長には、すでに提案しています。)これに関して、長崎県勤労者山岳連盟の川原一之理事長(長崎あゆみハイキングクラブ)及び西川覚史副理事長(長崎へバルナ山の会)ほか4人の会員の方々から、熱心にご質問をいただきました。

皆が不快な思いをしない・させないためにも、そして何よりもかけがえのない自然環境を守っていくためにも、ゴミと排泄物は自分で持ち帰る、というあたり前のことを、登山する者の当為として願います。



写真1 右の道を進むとトイレになっている



写真2 けもの道のように見えるが進むとトイレになっている



写真3 雲仙お山の情報館の座学にて説明

(写真 磯野文雄)

なお、告知としては間に合いませんが、12 月 12 日から 13 日にかけて、久住分かれの携帯トイレのトイレブースの清掃登山・利用体験(13 日)を行います。前日には、①磯野から、久住分かれの携帯トイレブースの使われ方の現状の報告、②「法華院温泉山荘代表取締役 弘蔵岳久氏」による久住地域のオーバーユースのご講演、③地元の「九重の自然を守る会会長 高橋裕二郎氏」、「福岡県山岳連盟理事長 山上司氏」等のお話を伺う交流会・意見交換会が行われます。

山のトイレ・環境を考える福岡協議会は、日本山岳会北九州支部、福岡県山岳・スポーツクライミング連盟、福岡県勤労者山岳連盟、日本山岳会福岡支部、個人会員、一般の山岳会や機関などにより組織された、山のトイレ問題を通じて自然環境の保護・保全を目的とする連合体です。近年の主な活動は、「携帯トイレブースの普及」及び「携帯トイレマナーの啓発」にあります。

北九州支部の会員の皆様が、携帯トイレを使うことにより、さらなる自然環境の保護と保全に寄与されるようお願いいたします。

山のトイレ・環境を考える
福岡協議会のホームページ



サイト URL : <https://yamatoilet-fuk.jp/>

メールアドレス : info@yamatoilet-fuk.jp

※一度、ホームページをごらんください。

YAMAP のアカウント



プロフィールページ

URL : <https://yamap.com/users/3479037>

※フォローをお願いします。

LINE の公式アカウント(認証済)

友達追加ページ

URL : <https://lin.ee/Vmf1qBZ>

※友達登録をお願いします。



原木栽培ナメコ(写真 橋川潤)

令和 5 年 7 月 16 日(日) 月例山行
九重山(訓練登山)
九重山 1700 ㍿を 6 座登る
15174 縄手 修

コースタイム：牧ノ戸登山口 7:30～沓掛山 8:00
～星生山 9:10～久住山避難小屋 9:50～天狗ヶ城 10:30～中岳 10:45～白口岳 11:30～稲星山 12:30～久住山 13:10～沓掛山 15:00
～牧ノ戸登山口 15:30

九重山と言えばミヤマキリシマを連想しますが、時期的に遅くほとんど咲いていませんでした。しかし別の色々な花が咲いていました。星生山から天狗ヶ城までの間に窓が有り、白口岳と稲星山の間ではハート池がありました(ハートには見えなかった)。九重連山はいつ行っても良い山だと感じました。今回は訓練登山ということで、1,700 ㍿以上の 6 座通過するコースでした。



久住山頂にて(写真 町元里香)

最近私は筋力の衰えを感じていて、普段から山へ行くときはザックの重さを 10 ㍿以上にして体力の維持を心がけています。今回の山行が 1 2 日後に迫った立山・剣岳・大日岳縦走の為にトレーニングになれば良いと思っています。

参加者 8 人：町元里香(CL) 竹本正幸
竹本加代子 縄手修(SL) 清家幸三 藤原玲子
折野道法 綱川和幸

令和 5 年 9 月 17 日(日)～18 日(祝) 月例山行
韓国岳と高千穂の峰
宿泊登山に初参加
 北九 538 堀内 博史

コースタイム

- 9/17(日) キャンプ場 10:05～つつじヶ丘登山口 10:15～大浪池分岐 11:30/11:40～韓国岳(昼食) 12:40/13:25～大浪池分岐 14:15/14:30～つつじヶ丘登山口 16:35～キャンプ場 16:45 8.1 歩
- 9/18(祝) キャンプ場(移動) 高千穂河原ビジターセンター 6:25～高千穂河原登山口 6:30～御鉢 8:10/8:20～高千穂峰(霧島山) 8:40/9:10～御鉢 9:25/9:40～高千穂河原登山口 11:05/11:12～高千穂河原ビジターセンター 11:15

皆さんの足を引っ張らないかと心配しながら参加した韓国岳と高千穂の峰の宿泊登山でした。

朝 8:00 山江 SA で合流し途中コンビニで食材購入後、韓国岳登山口のキャンプ場に 9 時半頃到着。10 時過ぎの出発で、巻き道を使って大浪池分岐点から韓国岳山頂を目指して木段をひたすら登り、岩山の山頂に何とか到着。支部長、各リーダーのおかげで皆さんと一緒に初めての韓国岳山頂に立つ事ができました。下りは滑りに気を付けたり、足元のアザミのトゲに刺されながらも無事下山してキャンプ場に到着。夜は最新の電磁調理器具やバス、トイレ付きの新しいログハウスで素麺宴会がスタート。好評の素麺を堪能しつつ大いに盛り上がる。就寝時間の 9 時まで楽しみました。



韓国岳山頂 (写真 清家幸三)

翌日の高千穂の峰登山は、早朝まだ星が見える 4 時起床、撤収、パンや温麺で朝食を済ませ 5 時出発。6 時 30 分高千穂河原登山開始。石畳の林の中をしばらく歩き、汗をかきはじめて頃、林から抜け出た。その後は、ガレ場や岩場の中を足下に気をつけての登山が続きます。途中から雨が降り始め、それぞれ雨具の着用での登山になりました。馬の背に着く頃には雨も止み、周

囲の山や下界の展望を楽しみながら山頂に到着。写真撮影や行動食等を食べた後、下山開始。下りは



高千穂の峰山頂 (写真 清家幸三)

足下に注意し滑り落ちない様に何とか全員無事に登山口に戻ることが出来ました。リーダーをはじめ各役員の方々、参加者の皆さん大変お世話になり楽しい登山ができました。また一緒にさせて下さい。楽しみにしています。ありがとうございました。

参加者 10 人：竹本正幸 竹本加代子 森元信子 縄手修 町元里香 (CL) 清家幸三 藤原玲子 太郎良嘉親 網塚陽子 堀内博史

令和 5 年 10 月 7 日(土) ボランティア活動
自然保護活動 平尾台
 17126 大山 時彦

- 1 目的
セイタカアワダチソウ除去
- 2 集合
平尾台自然観察センター駐車場 10 時
- 3 行程
10:10 茶ヶ床へ車移動 ⇒ 岩山
10:40～12:00 セイタカアワダチソウ除去作業(岩山付近)
12:00～12:30 岩山にて昼食
12:30～14:30 セイタカアワダチソウ除去作業
15:30 観察センター駐車場にて横山秀司 (CL) クローズミーティング後に解散

4 報告と感想

私は今年 6 月に支部会員から日本山岳会の会員に入れていただきました。その時、支部のボランティア活動として、「平尾台のセイタカアワダチソウ除去と英彦山のトイレ掃除を行っており、できるだけボランティア活動にも協力してほしい」とのお話がありましたので、今回はじめて参加させていただきました。

しばらく厳しかった残暑も急に秋めいて、平尾台のススキも秋風景となり、当日は曇り空で外作業にはちょうどよい天候でした。初めてなので除去作業はどんな方法をするのだろうか？ と思っていました。平尾台自然観察センター自然解説員の古川さんから、作業場所においてセイタカアワダチソウや作業方法の説明が20分程ありました。作業場所は昨年と同じ所だそうで、たぶん昔は畑であったのではとの説明でした。

アワダチソウは自宅近くの河川敷や放置された田畑によくあり見慣れた物ですが、除去は刈払い機で刈り取るだけでしたが、ここでの活動方法としては1本1本根から抜き取る手作業との指導でした。縦横約30畝の広さ一面のセイタカアワダチソウに向か



一列に並んで除去作業(写真 榎俊一)

って参加者横一列に11人並び、1本1本愛情込めて引き抜く人海戦術の作業をもくもく行うものでした。30

分もすると各自、だんだん言葉少なく、ただアワダチソウと向き合うだけで、日ごろ使わない手足を使うので、足腰の痛み感じる楽しいものではなく、これがボランティア活動だと実感しました。沈黙作業が続く中、思ったことは、やはり昭和10~30年頃生まれの人間は我慢強いものだ。平成、令和の若者には合わないかな？ と独り言を呟きました。

そのような中で遠くから正午の音が聞こえ、昼食タイムは岩山でとることに。遠く上空のハングライダーやススキ風景を見ながら、秋の心地よいランチタイムを味わえました。

午後の作業は12:30~14:30。これは長いだろうと思いながら作業に専念。無言作業の中、アワダチソウ1本1本と向き合うと、茎が太く長いもの



セイタカアワダチソウの除去作業現場にて(写真 榎俊一)

でも全身の力を振り絞って引っ張り抜くとこれが簡単に抜ける物もあり、また、細い茎で小さなものの中にはいく

ら力を入れても抜けない等、人間の予想に反する自然の植物の力を感じました。人も植物も見かけで判断してはいけないな！ と学ぶこともあり、つまり『自然界、万象皆我師成』の心境でした。

午後は慣れたせいか、抜き取った跡がだんだん広くなり成果が見えて達成感も味わえました。また登山途中の女性お二人も手伝ってくださり、大変ありがたかったです。やはり人海戦術は頭数です。11人の皆様今回はお疲れ様でした。半日、セイタカアワダチソウと向き合う時間をもつことは自然保護において貴重な体験だったと思います。来年は多くのご協力者が参加されることを願っております。

参加者 11 人：横山秀司 (CL) 馬場基介 榎俊一 竹本正幸 (SL) 竹本加代子 赤瀬榮吉 森本信子 町元里香 清家幸三 網塚陽子 大山時彦

令和5年10月14日(土)~15日(日) 月例山行
三瓶山(テント泊)
「夕食の間、雨よ降らないで！」
14853 竹本 加代子

コースタイム：西の原登山口 7:30~男三瓶山 9:40/9:56~女三瓶山 10:47/11:05~大平山(昼食) 11:15/11:45~奥の湯峠 11:57~孫三瓶 12:13/12:25~子三瓶 12:55/13:05~扇沢分岐 13:30~西の原登山口 14:20

計画を遂行できるかできないかは天気次第である。テーマがテント泊であるが故の悩みである。14日初日の天気予報はくもりであり、テント設営も雨は回避できると思っていたが、残念なことに前日の予報は15時から雨である。

当日集合場所での相談に中止の声はなく決行。雨のなかのテント設営と撤収は大変なので、ケビンかコテージを検討する。空きはなく常設テントに変更する。では、雨の中での夕食準備はどうするか一抹の不安を抱えながら北の原キャンプ場へ向かう。15時。まだ曇り空である。「夕食の間、雨よ降らないで！」と願いながら準備を始める。メニューの芋煮、ポテトサラダ、ちくわの詰め物。中畑さんからの差し入れのタケノコの煮物にキュウリの酢の物、黒豆に栗のおにぎり「山ご飯」にしては豪華なメニューである。ピジターの植木さんよりテーブルの準備セッティングもあり、久しぶりに雰囲気のある

キャンプ飯ができた。雨も降らずみんなの協力もありスムーズに夕食となる。いつもの明日へのエネルギー？をほどほどに頂きテントで就寝となる。

ところが夜中の 2 時頃からカミナリと激しい雨音に目を覚ます。今度は朝食の準備が心配になる。これも雨が上がり立

食ではあったが、各自それぞれのメニューと大山さん差し入れのアンパンで朝食をすませ予定通りの行程を確認し出発。西の原登山口に移動し 7 時 30 分に男三瓶山に向けて出発する。天気予報は 12 時までには雨である。暑くなるであろうが雨具は着けて登る。ジグザグの登



西の原登山口から男三瓶を目指して出発 (写真 竹本加代子)

山道も終わりにさしかかる頃、カミナリが鳴り始め小雨が降り出し虹もでる。目まぐるしくコロコロ変わる空模様の中、9 時 48 分に男三瓶山山頂に立つ。眺望は望めず、電波塔のある女三瓶山を目指す。雨は止んではいたが、今日はいつ降りだすかわからない状況で、雨具を中々脱ぐわけにはいかなかった。

大平山で昼食をとる。ちょうど雨が上がりつかの間の展望が開けた。大山を探したり、これから向かう孫三瓶、子三瓶を確認したりする。また、雨が降ったり

止んだりではあったが無事西の原登山口に着き解散となる。皆さんお疲れさまでした。

参加者 10 人：榊 俊一 竹本正幸 (SL) 竹本加代子 (CL) 縄手修 町元里香 中畑智子 藤原玲子 折野道法 大山時彦 ビジター 植木聡子



男三瓶山山頂 (写真 榊俊一)

令和 5 年 10 月 22 日 (日) 月例山行 祖母山
「紅葉狩りに祖母山にのぼろう！」

17022 折野 道法

コースタイム：神原登山口 8：02～5 合目小屋 8：34～国見峠 10：30 / 10：38～祖母山 11：03 / 12：10～9 合目小屋 12：17～国見峠 13：01 / 13：08～5 合目小屋～14：30～神原登山口 15：06

(距離 8.7 ㎞ 累積標高 1119 ㍎ / 1119 ㍎, 7.時間)

JAC 北九州支部の月例山行に日本百名山 No.96 大分の名峰で花の百名山の祖母山 1,756 ㍎に紅葉登山に行って来ました。

久々に今秋一番の微風快晴のお天気にも恵まれて、祖母山頂からは、由布・鶴見～くじゅうの峰々～阿蘇五岳～雲仙～市房、国見に霧島の霊峰と九州の名峰が全部見えます。別府湾の向こうに石鎚の山影は気のせい？でしょうか。圧巻の紅葉に染まった大崩・傾から祖母の稜線に後ろ髪を引かれ下山しました。



快晴の祖母山山頂にて (写真 折野道法)

参加者 6 人：清家幸三 (CL) 三浦利夫 (SL) 藤原玲子 太郎良嘉親 折野道法 大山時彦

令和 5 年 11 月 3 日 (祝) ~4 日 (土)

第 36 回宮崎ウェストン祭と祖母登山

17126 大山 時彦

<概要>

- 11 月 3 日 (土) 16 時～21 時 30 分
 - 宮崎ウェストン祭式典及び地区交流会
五ヶ所高原 三秀台ウェストン碑広場
 - 九州五支部懇親会
五ヶ所高原ひめゆりセンター

参加者 6 人：日向祥剛 竹本正幸（式典のみ）
竹本加代子（式典のみ） 磯野文雄 大山時彦
ビジター Sさん

2 11月4日（日） 8時～14時

・祖母山登山（自由参加）北谷登山口周回コース
参加者：2人：大山時彦 ビジター Sさん

<報告と感想>

今回のウェストン祭は、支部案内では自由参加とのことでしたので、各参加者もご自分のスケジュールに合わせ現地に集合し、それぞれのスケジュールで行動しました。

私と友人 Sさんは式典から翌日の祖母登山まで参加させていただきました。

私の狭い認識では、W.ウェストン師は「日本近代登山の父」で英国人宣教師くらいの知識でした。数年前、上高地に行ったとき、梓川のほとりの岩肌にウェストン碑があるのは拝見していましたが、なぜ宮崎高千穂の三秀台にもあるのか疑問でした。そこで、深田久弥百名山の書物からウェストンが日本来朝して先ず『富士山』に登ったことを知り、次は日本アルプス関係ではとっていました、実際は当時九州第一の高峰とされていた『祖母山』に登ったと記載してありました。これで、宮崎高千穂にウェストン碑のあるのが理解できたと言う訳でした。

式典は三秀台ウェストン広場で夕方 16時半から始まり、11月とは思えないような好天で暖かく Tシャツ姿もあるような、紅葉景色の素晴らしい中での式典でした。宮崎支部の方から陽が落ちると寒くなるので五ヶ所地区交流会はダウン等防寒準備で参加下さいとのことでした。



会場となった三秀台ウェストン碑広場（写真 大山時彦）

そのとおり気温は 10 度 C 程下がって、晩秋から冬の寒さとなりましたが、青竹のカッポ酒や焼き鳥等の豊富な食べ物や、お神楽の出しもの等の地元の方々の温かいおもてなしで体も心も暖かくなりました。

その後、宮崎支部の方々に準備していただいた宿舎（五ヶ所高原ひめゆりセンター）にて五支部懇親会が開かれ、またお酒を交わしながら各支部の報告懇親を深めることができました。

私は 6 月に日本山岳会に入会させていただき、各支部の方々とお会いする機会は初めてでしたが、登山を通して山を愛する者どうしで、気兼ねなく話かけて頂き、同行友人共々楽しい一夜を過ごさせていただきました。

翌日は各支部単位で祖母登山の予定となり、私と友人は宮崎支部 9 人の方と北谷登山口を 8 時に出発して、山頂に 11 時 30 分着。紅葉景色の中で昼食して、14 時過ぎに下山するという周回登山を満喫させていただきました。以前、神原コースは登ったこと



記念山行 祖母山山頂（写真 大山時彦）

がありましたが、北谷コースは初めてで、宮崎支部の方の解説付きの楽しい 6 時間の登山でした。

今回、初めての参加でしたが各支部の方々とも交流でき、特に宮崎支部の皆さんにはいろいろとやさしくお心遣いいただき、感謝しております。来年もまた北九支部皆さんでおいで下さいとのことでしたので、都合がつけば是非、祖母登山を含めて参加したいと思っています。

追伸、私事ですが、翌朝北谷登山口駐車場に着くと、車の前輪左タイヤがパンクしていると告げられ愕然としました。何十年もタイヤパンクは経験なく、JAF のお世話になり自宅帰宅が 22 時半とこれも思い出に残る秋の宿泊登山でした。（JAF 担当曰く、前日も同じ登山口でパンク対応したとのこと、やはりスペアタイヤは必要ですかね？）



春の使者セツブンソウ（写真 橋川潤）

2024 版画同好会からの年賀状

皆さま、新年明けましてお目出とうございます。
今年も版画同好会員の年賀状を披露致します。

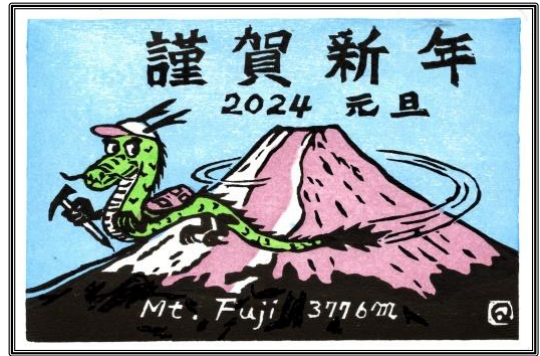
昨年は田中眞一会員が東京の日本板画院一般部門
と田川美術展でそれぞれ初入選。丹下香代子、馬場
基介、平賀裕之会員が日本板画院小作品部門でそれ
ぞれ佳作賞を受賞するなどの良い成績を残しました。
今年もまた挑戦したいと思いますので、どうかご支
援よろしくお願ひします。



版画同好会メンバー 北九州支部のルームで



ケルンと仙丈ヶ岳 竹本 正幸



富士と龍 伊藤 久次郎



竜の家族 田中 眞一



辰 丹下 香代子



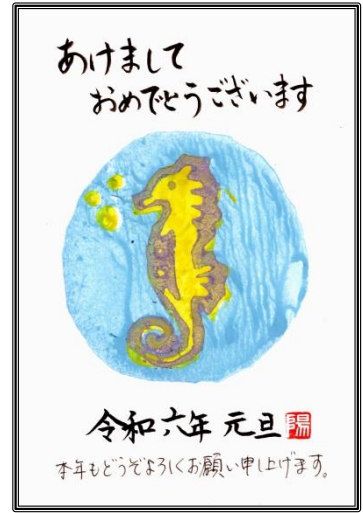
竜の親子 平賀 裕之



初 春 馬場 基介



孫の絵とのコラボ 立石しま子



毛筆と版画の竜 網塚 陽子

令和 5 年 11 月 5 日(日)

森林保全一斉巡視活動報告(尺岳 608 ㌔)

14916 赤瀬 榮吉

竜王峡キャンプ場駐車場に集合時間 9 時前に全員集合した。横山自然保護委員長より更新したばかりの「森林保全巡視員委嘱証明書」を受け取り携行と九州森林管理局の腕章(緑色)を付け準備した。ミーティングで横山 CL より、今日の巡視ルートの確認と下見して、上り溪谷沿いの斜面が崩れ狭いところがある注意を促された。

9 時過ぎ竜王峡キャンプ場より巡視活動スタート。しばらく竜王峡の溪谷沿いを進み注意された場所は一段と気を引き締め通った。今年新規登録した橋川巡視員より樹木の手解きを受けた。カツラ(桂)の木の落ち葉を揉むとキャラメルの香り、ミズメ(別名ヨグソミネバリ)の樹皮は初めてでサロンパスの匂いがした。頓野林道を横切り直進する道と並行し林道が山瀬越(588 ㌔)まで延びていて、10 時 50 分に着き休憩をとった。ここから、尺岳までは緩やかな縦走路で再度頓野林道を横切り案内板を前にして立ち休憩した。横山 CL より上野焼のルーツなどの話にしばし耳を傾けた。

まもなくして尺岳平の広場に出、すぐ先の尺岳山頂に 11 時 43 分に着くと、竹本支部長より当会福岡



尺岳山頂での記念写真 (写真 榎俊一)

支部長浦一美さんの訃報が告げられ、ご冥福を祈り 1 分間の黙祷を捧げた後、昼食タイムを 12 時 30 までとった。

午後からの巡視ルートは、尺岳平まで戻り四方越を左にとり沢沿いを下り、14 時 50 分活動を終え計画通り 15 時解散した。今日の巡回で気づいたところは、下山口近くの堰堤右岸の防護柵(鉄パイプ製)の支柱の根元が錆び数箇所浮いていた処です。「森林保全巡視情報」にて福岡森林管理署へ報告します。

参加者の皆様、約 6 時間の巡視活動ご苦労様でした。

参加者 10 人 巡視員：横山秀司(CL) 竹本正幸(SL) 馬場基介 榎俊一 町元里香 橋川潤 赤瀬榮吉 員外：竹本加代子 縄手修 将口晋司

令和 5 年 11 月 23 日(祝)

第 4 回登山入門講座
コンパスを使って地図読みと観天望気ハイク

14853 竹本 加代子

本日は、平尾台吹上峠に集合。コンパスの基本的な使い方と空を見上げて雲の種類と雲の動きを見る平尾台の地図読みハイクのはじまり。まずは平尾台特有のドリーネを色鉛筆で塗りつぶし、地図読みの参考ポイントにする。コースは吹上峠より大平山～四方台～貫山(昼食)～引き返し四方台～尾根を下り回り込んで岩山～キス岩・根性の木に寄り道し、上穴・下穴を経て吹上峠の周回コース。これから進行方向をコンパスで判断し、尾根を下る場合はどの尾根かを見定める。ポイントポイントでは空を見上げて雲の高さや種類、動きをみる。

平尾台は馴染みのハイキングコースであり 360 度見渡すことができるので地理的にも理解されている。それを知った上でのコンパスの操作は理解し易かったと思う。少しずつレベルアップして尾根や支尾根に谷、鞍部(コル)、10 ㌔未満のピークを読んだり経験値を増やしていくと登山も楽しくなる。道迷いが遭難の多くを占める現在、地図とコンパスは登山の三種の神器の一つとして活用し自立した登山者を目指しましょう。

登山アプリも現在地が分かり確かに助けられている。しかし、バッテリーが切れたり、藪こぎで紛失したりして死亡した事例もあります。アプリと地図を併用して普段の山歩きの中で地図の北、進むべき方向が分かれば登山の安全度が増すことに絞って地図読み講習を実施した。



地図読みの講習 (写真 町元里香)

参加者の皆さんからの声は「机上ではなかなか分かりづらいですが、現地で具体的にコンパスを使うことで実感した」「平尾台は何度かコースを回っています。コンパスを使っては初めてで復習をしたい」「いい勉強になりました。今後活かしたい」「地図を見ながらコンパスを使っては初めてで今後の参加で身に付けたい」「コンパスは初めてで分かった気はするが最後の詰めが甘いので復習をしなければと思う」これからは尻見登山ではなく自立した登山者になりましょう。

参加者 12 人 指導員：竹本正幸 竹本加代子
赤瀬榮吉 縄手修 町元里香 清家幸三
受講者：折野道法 橋川潤 大山時彦 堀内博史
久保正志 將口晋司

令和 5 年 11 月 25 日(土)～26 日(日) 月例山行
銚岳・矢筈岳・丹助岳「宿泊登山」

参加者 11 人：竹本正幸 (CL) 竹本加代子
縄手修 町元里香 清家幸三 太郎良嘉親
藤原玲子 大山時彦 宮本真希 堀内博史
久保正志

11 月 25 日(土) 銚岳
大迫力の花崗岩スラブの銚岳と
大きな口のパッケン岩
北九 531 宮本 真希

コースタイム：鹿川キャンプ場 9：20～パッケン
岩分岐 10：28～パッケン岩 10：35/10：50～
鬼の目分岐 11：25～雄銚 (昼食) 11：50/
12：33～雌銚 12：50/13：05～鹿川キャン
プ場 15：05

宮崎県延岡市、鹿川渓谷の最上流部に座する銚岳
は大迫力の花崗岩スラブで、同市内にある比叡山と
並び、多くのクライマーを魅了する山。麓にある鹿

川キャンプ場から、その素晴らしい山容を眺め
ることができ、登りたいという
意欲をとてそそられた。

9 時 30 分頃、
みんなで準備運
動をして鹿川キ
ャンプ場から登
山開始。しばら
く歩くと大迫力
のスラブが現れ
た。一枚岩のす

ぐ下を登山道が通っているので目の前の大迫力に感
動。そして一枚岩を左手に見ながら沢沿いを登って
いくと、パッケン岩が見えてきた。まるでパッケ
マンが口を開けているかのような岩で、本当に自然
が作り出したのか疑問に思うほど不思議な形をしてい



秋空に映える銚岳 (写真 竹本正幸)



パッケン岩の口の中 (写真 町元里香)

た。パッケン岩はかなり大きく、口の部分に入っ
てみんなで一緒に記念撮影をした。

銚岳は雄銚と雌銚と呼ばれている 2 つの岩峰から
形成されているが、まずは銚岳の最高点である雄銚
へ。山頂は草木に囲まれているが、さらに進んだ先
に素晴らしい展望スポットがあり、景色に圧倒され
た。素敵な場所でお昼ご飯を食べ、雌銚へ出発。雌
銚への道は、はしごやロープの連続でやっとの思い
で切り切ると、右手に雄銚スラブが目の前に広がっ
た。スラブの下部から上部までを眺めることができ、
かなりの高度感だった。そして、雌銚への最後のは
しごは高度感があり、足の震えを感じながらひたす
ら登ることだけを考えピークへ。私はあまりの高度
感に立ち上がることはできなかったが、360 度眺め
られる素晴らしい景色だっただろう。慎重にはしご
を下り、帰路へ。15 時頃下山し、麓にある鹿川キ
ャンプ場に宿泊した。夜はみんなでぎょうざ鍋を食べ、
一日の疲れを癒した。

銚岳は非常に迫力のある一枚岩の山で、宮崎県の
北部を象徴するような美しい渓谷、美しい森、迫力
ある岩場など、魅力あふれる山だった。

11 月 26 日(日) 矢筈岳・丹助岳
興味深い山々
「銚岳・矢筈山・丹助岳」
北九 540 久保 正志

コースタイム：矢筈岳登山口 8：15～西峰 9：00
～矢筈岳 (東峰) 9：25/9：40～巻道経由～
登山口 10：15～車で移動～丹助キャンプ場 (昼食)
10：50/11：20～天狗を経て～丹助岳 12：40
/12：50～巻道経由～丹助キャンプ場 13：05

午前 5 時起床。優しいメンバーの方々のお心遣い
で、美味しい雑炊と味噌汁を頂いた。皆さんお替わ

りをして、身体も心も温まって素晴らしい1日のスタートを切ることが出来た。そして天気も良好だ。

鹿川キャンプ場を車で出発し、矢筈岳駐車場に到着。矢筈岳西峰を目指して登山開始。西峰は危険箇所があるため、東峰だけを登る者もいると予め調べていたので、滑落しないよう慎重に集中して一歩一歩進めた。難所の西峰を登り終え、目指すは東峰。標高は666㍎。この数字を見て、昔の映画「オーメン」のタイトルを思い起こし、危険が迫ってくる感じがしない様、尚一層気を緩めずに歩を進めた。東峰からは、真正面に比叡山の岩壁が見え圧倒的だ。すぐに私には出来ないと思った。

次に、最後の山、丹助岳に登るため車で丹助岳キャンプ場へ移動。ここには、宿泊できる小屋やトイレが設置されていた。昼食を済ませ出発。途中、岩場があり1人ずつ慎重に下る。親切な先輩メンバーの指示に、岩場に慣れない私は、足場や手がかりを確認するのに右往左往。ようやく丹助岳に到着。帰りは違うルートで丹助岳キャンプ場に到着。今回の山行が終了した。



丹助岳 15 ㍎のスリルと緊張感の岩場 (写真 大山時彦)

恥ずかしいことに、今回の鉾岳、矢筈岳、丹助岳は全く知らなかったが、意外にも特徴のある興味深い山々であることが分かり中身の濃い山行となった。2日間、雲一つない様な天候に恵まれ、山頂からは大崩山、祖母・傾山、阿蘇の山々等、遠くの山々まで眺望する

ことで大いに満足させて頂いた。まだまだ知らない山々が九州にたくさんあるのだと改めて思い知らされた。ありがとうございました。

素晴らしい天候だったので、数日前の入門講座で研修した「観天望気」を活かせなかったこと、また私自身がコンパスを使って「地図読み」する時間を見つけ出すことができなかつたこと、次の山行には是非活かしたいと思います。



マンサクの花 (写真 橋川潤)

令和5年10月21日(土) ポレポレ山行
歴史街道 秋の「萩往還」ハイク
15318 縄田 正芳

萩往還は慶長9年(1604年)関ヶ原の戦いのあと毛利氏の萩城築城後、江戸への参勤交代の御成道として開かれたとあります。日本海側の萩城下より山口を経て瀬戸内側の三田尻港(防府市)までの約53㍎を結ぶ重要な街道でした。また幕末には吉田松陰や高杉晋作はじめ多くの志士が往来しており歴史上重要な役割を果たした道です。

今回の歩行は山間の佐々並宿より萩方面へ一升谷をたどりの明木宿(あきらぎ萩市郊外)までの約9㍎の道を歩きました。

9時10分に明木の旭マルチメディアセンターで車に分乗、山口方面佐々並宿へ移動。9:30車を置きスタートしました。佐々並宿は清らかな川の流に沿った今なお昔の面影を残す静かな集落でした。メインの通りを抜けるとすぐにとこところどころに石畳の跡が残る林の中の道に入りました。じきに明るく開けた道となり「落合の石橋」と言う小さな橋へ。山口県特有といわれる刎橋(はねばし)形式のもので現在国の登録文化財にもなっているそうです。当時の石工たちの技術の高さがしのばれる橋です。

秋の陽を受けた溪流沿いの道は快適でまた歩道沿いの木々に目を向けると秋の恵み、アケビの実がたわわになっていました。さっそく採って食べてみましたがほんのりと甘く昔懐かしい秋の味がしました。

12時に中間点の鉾切り(ちょうぎり)地区へ到着。ここから先が今日のハイライト一升坂の急な下りとなります。道の両側はうっそうとした杉林。昼なお暗きです。日当たりが悪いせいか全般にじめじめとしたところで、一部に昔ながらの石畳が残っている道を滑らぬように一歩一歩注意して下っていき



一升谷入口付近で(写真 縄田正芳)

ました。逆ルートの萩方面からの旅人はこの谷の急な登りに大変苦労したそうです。またこの道を通った幕末の志士たちに思いをはせ

ながら歩きました。

木々に囲まれた溪流沿いの道を下ること1時間半、ようやく視界の開けたところへ出ました。そこが明木宿でした。この時期紅葉には少し早いようでした

が秋の澄みきった空気の中、気持ちよく歩くことができました。

14 : 10 旭マルチメディアセンター着 解散

参加者 5 人 : 原広美 丹下洽 丹下香代子
縄田正芳 (CL) 太郎良嘉親

令和 5 年 11 月 22 日 (水)

ポレポレ山行「十種ヶ峰」

標高 989 ㍎の十種ヶ峰は
長門富士とも呼ばれている山
16602 太郎良 嘉親

9 時に山口県庁駐車場に集合でしたが遅れた車があり、西のお伊勢様と呼ばれる山口大神宮を散策。内宮、外宮があり大変由緒ある場所でした。

9 時 45 分頃縄田さんと田中さんの車 2 台に分乗して十種ヶ峰へ。10 時 45 分頃十種ヶ峰山麓駐車場に着き、10 時 54 分登山スタート。11 時 36 分に十種ヶ峰山頂到着。そこでお昼とコーヒータイム。お天気がとても良く風も少なく暖かでのんびりとした時間を過ごすことができました。今日の最高気温は 21 度だったようです。十種ヶ峰は山口県と島根県にまたがる標高 989 ㍎の山で長門富士とも呼ばれ、一等三角点がありました。



十種ヶ峰山頂 (写真 伊藤久次郎)

13 時 20 分に山麓駐車場へ下山して来て、次へ移動となりました。青少年自然の家でトイレタイム。りんごの駅徳佐でリンゴ等のお買い物。14 時 57 分に県庁に到着して解散となりました。

お天気も良く楽しいハイキングでしたが、予定の徳佐八幡宮と長門峡が時間の関係で無くなったのがちょっと心残りではありました。

参加者 10 人 : 園川陽造 原広美 伊藤久次郎
関口興洋 丹下洽 丹下香代子 縄田正芳
太郎良嘉親 田中眞一 田中陽子

令和 5 年 6 月 20 日 (火) 個人山行
石鎚山脈の最後は権現・エビラ山

17031 橋川 潤

石鎚山脈は石鎚山 1,972 ㍎を主峰とした四国西部を東西に走る山脈である。一つの山に登るとその隣の山への縦走路がうねうねと連なっているのが見え、先へ先へと登山欲を誘う山脈である。

これまでこの山域に 10 数回の山行を積み重ね、歩いた縦走路の軌跡をたどると一か所だけ空白地があり、そこを埋めるため権現山 (1,594 ㍎)、黒岳 (1,636 ㍎) エビラ山 (1,677 ㍎) 登山を計画した。

コースタイム

床鍋登山口 5 : 10 ~ (鉄塔巡視路経由) ~ 権現山
8 : 55 / 9 : 08 ~ 黒岳 10 : 22 / 10 : 35 ~ エビラ山
11 : 32 / 12 : 04 ~ 黒岳 12 : 50 / 13 :
10 ~ 権現山 14 : 20 / 14 : 40 ~ 権現越 15 : 05
/ 15 : 10 ~ 床鍋登山口 17 : 18

山中ではよく道草を食うので標準コースタイムの 2 割増しを想定すると、所要時間が 1 2 時間ほどになるため、早朝 5 時に出発した。

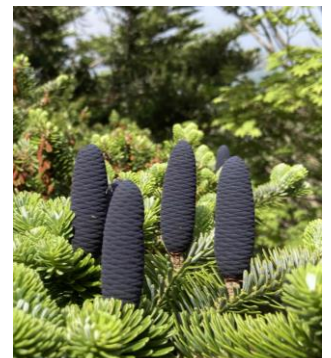
最初はスギ、ヒノキの壮齢林を登り、鉄塔巡視路に入り谷を渡ると広葉樹が多くなる。



発見！広義のエクロジャイト (写真 橋川潤)

主稜線に近づくと岩峰の権現岩が見えてくる。ここには法皇神社が祭られており、それに因んで石鎚山脈の中でもこちらの山系を法皇山脈と呼んでいる。また、権現岩は日本ではこの一帯にのみ産する「エクロジャイト」からできているという。「エクロジャイト」は地下数 10 ㍎の深部で玄武岩などが高温高圧の作用を受けてできた変成岩で、地殻の変動で地上に出てきたものとのこと。主に赤い柘榴石と緑色の輝石を含んでいる。

尾根に上がり東へ縦走路をたどるとまもなく権現山に到着。そこからエビラ山を経てさらに東のニッ岳へは大岩を巻いたり下ったり、道標も無く未整備のルートだ。しか



権現山のシコクシラベの球果 (写真 橋川潤)

し、わずかな踏み跡、テープを頼りに進むことができる。黒岳に近づくと、稜線上に径1㍍の柘榴石の結晶と雲母を含んだ岩石があちこちに頭を出している。しかし、どうも「エクロジャイト」ではなさそう。岩石に詳しい山屋と同行できたらどんなに充実した楽しい山行になるだろうかと思えばかりである。

急傾斜を上り黒岳に着く。見晴らしがいい。振り返ると東赤石山の大きな山体がでーんと座っている。この時期、東赤石山はキバナノコマノツメ、コウスユキソウ、ユキワリソウや本州中部以北の山岳地帯で見られるタカネバラの花々、7月になればタカネマツムシソウや四国固有のシコクギボウシ、オトメシャジンが咲き出す人気の花の山だが、エビラ山側にはそれらは見当たらなかった。東赤石山は「橄欖岩」の山であり、こちらは別の変成岩。この地質の違いが植生に大きな影響を与えているようだ。

さて、エビラ山へは慎重にルートを選んで歩き、主稜線から少し南へ突き出たところに山頂がある。この先のニッ岳方面は以前歩いているので、堂ヶ森西方の保井野分れから、石鎚山、瓶が森、笹ヶ峰、東赤石山、エビラ山を経てニッ岳東方の峨蔵越までの約52㍍の縦走路を長年かけてすべて歩いたことになった。

帰りは元の道を権現山まで戻り、権現岩の法皇神社に立ち寄り、草付きの権現越で花々を愛でて、床鍋登山口にやっとこたどり着いた。計画どおりの12時間だった。



2001年に地元で開催された「国際エクロジャイト会議」を記念して建てられたエクロジャイトの石碑。床鍋から西1㍍の瀬場の県道沿いにある。(写真 橋川潤)

卒寿を迎えた高畠会員の近況

13499 伊藤 久次郎

家の西日本新聞に広告誌として添付されてきた2023年11月10日発行のローカルタウン誌CHIKUSKI 12月号の「嘉麻市山田」特集の中に、我が北九州支部の高畠会員が写真付きで2ページにわたって紹介されているのを見つけた。早速本人の了解を得て北九州支部報に近況報告として紹介することにした。おまけに彼は今年で90歳の卒寿。



タウン誌記事 (三高山の高畠)
(ローカルタウン誌からの引用)

<三高山を守る会初代会長 高畠拓生さん>

日本山岳会に所属し、全国各地で精力的に活動する傍ら、地元では嘉麻トレッキング倶楽部なども主宰。ガイドを長年続け、嘉穂アルプスの日本山岳遺産登録にも尽力。

<5千㍍級の山も踏破 三高山を拓いた登山家>

山田のみならず、嘉穂アルプスを擁する嘉麻トレッキングシーンに計り知れない影響を与えた人がいる。高畠拓生さん。御年90歳！山田で生まれ育ち、若い頃から登山やキャンプが好きで親しんでいたが本格的に登山を再開したのは62歳の頃。「出張で長野におったときかな。電話で家内が『また山を始めたらどうね』と言うてくれて、そこからよく登りだしたんです」。国内各地の名峰のみならず、ネパールのカラパタル(標高5,545㍍)に登頂した経験も。その時なんと71歳。「北九州出身の登山家、山下健夫さんと交流があって、ネパールもその縁で行くことができました。まわりのおかげ」。山行記録はすべて保管してあり、写真も数え切れないほどある。「いろんな山に登らせてもらいましたね。特に

好きだったのが宮崎の大崩山（おおくえやま）。20 回以上は登ったかな」。

地元の山へ取り組みはじめたのは約 10 年前（実際は 20 年前と思われる）。荒れ果てた作業小屋を見つけ、生い茂った草木の伐採と清掃を 3 年かけてコツコツと行った。作業小屋は山小屋へ、道も整備が行き届き、広場は英彦山や日の出を拝める憩いの場へ生まれ変わった。「三高山はね、近所にある別荘み

たいなもの。なかなか良いところでしょ？」高畠さんが立ち上げた「三高山を守る会」の会長は白金材木店の運（はこぶ）さんに引き継がれ、切り拓いた美しい一帯は地域の宝物として、大切にバトンが繋がられている。と以上のように書かれており、この小屋には、日本山岳会の森元会長、北海道支部の新妻元支部長、長谷川元支部長など遠来の岳人も来訪し酒宴を開いたこともあった。



山高山山小屋



山高山山小屋内部



山高山前広場

（いずれもローカルタウン誌からの引用）

山行・行事のお知らせ

— 3月 —

● 臨時月例山行

「苅田アルプス」縦走と花見

日時 3月20日（祝）

集合 南原登山口 9時00分

公共交通機関ご利用の場合はご相談下さい。

コース 猪熊登山口から小波瀬里山5連峰と苅田アルプス4峰を縦走して南原登山口に下りてきます。約5時間の行程です。

連絡先 竹本正幸 TEL090-6739-9251

✉ takemoto.masayuki@white.plala.or.jp

締切り 3月6日

— 4月 —

● 月例山行 日王山～大山～関の山縦走 ～のんびり歩こう～

期日 4月7日（日）

集合 庄内保健福祉総合センターハーモニー駐車場 9時30分

コースタイム 4時間

申込み 大山時彦 TEL090-3609-6102

（SMS）✉ ooyamagumi717@gmail.com

締切り 3月24日（日）

● 第25回通常総会・懇親会

会場 毎日西部会館 7F

日時 令和6年4月20日（土）

14時00分～16時30分

受付 13時30分

講演 14時00分～15時00分

総会 15時10分～16時30分

懇親会 17時30分～19時30分

会場 居酒屋コールド

申込み 事務局清家幸三 メール又は SMS

✉ qqmn2kd9k@fuga.ocn.ne.jp

締切り 3月20日

— 5月 —

● 月例山行 親父山

期日 5月11日（土）～12日（日）

集合 黒原越展望台（宮崎県高千穂町）

10時30分

行程

11日 展望台～赤川浦岳～展望台（CT2時間）

四季見原すこやかキャンプ場へ移動

12日 （朝食後車で）～四季見橋登山口～三尖

～黒岳～親父山～障子岳～登山口（コ

ースタイム約6時間）

装備 ロッジ泊装備、日帰り装備一式

申込み 橋川潤

✉ hashikawa_0406@yahoo.co.jp

締切り 3月31日（日）

● ボランティア活動

平尾台のムラサキの監視活動

期日 5月18日（土）

集合 平尾台吹上駐車場 8時30分

コース 吹上駐車場～大平山～四方台～茶が床～吹上駐車場

申込み 横山秀司 TEL 090-9609-7721

✉ yoko-hideji@ab.auone-net.jp

締切り 5月6日（月）

● 全国支部懇談会

担当 日本山岳会神奈川支部

期日 令和6年5月25日(土)～26日(日)

参加費用 20,000円(宿泊2食、26日弁当)

日程

25日 岡野金次郎碑前祭

26日 交流登山等3コース

①三浦アルプス

②鎌倉大仏ハイキング

③自由行動(鎌倉観光など)

申込み 事務局清家幸三 メール又はSMSにて

✉ qqmn2kd9k@fuga.ocn.ne.jp

2月10日まで

※詳細 12月25日に事務局から各会員へメールした「神奈川支部報第27号」を参照

— 6月 —

● 森林保全巡視活動(前期)

大根地山 651.9 ㍎(筑紫野市)

リーダー 赤瀬榮吉

日時 6月8日(土) 9時30分集合

集合場所 竜岩自然の家駐車場

行程 駐車場～扇滝～大根地神社～大根地山～分

岐(笹尾山)～駐車場(周回コース)

活動時間 5時間程

申込み 赤瀬榮吉 Tel090-7475-9748(SMS優先)

✉ b105ei.akase@cap.ocn.ne.jp

締切り 5月17日(金)

※ 森林保全巡視員以外の方も参加できます。

● 月例山行 九州オルレ 筑豊・香春コース

日時 6月16日(日)

集合 採銅所駅 8時30分

コースタイム 5時間 (11.5 ㍎)

リーダー 奥田スマ子

申込み 町元里香 090-9572-6939(SMS)

✉ yunae.runa@gmail.com

締切り 6月1日(土)

● 第1回登山入門講座 オリエンテーション

山のトイレのルールやマナーについて

日時 6月22日(土) 10時～14時

場所 支部ルーム

締切り 6月8日(土)

申込み 町元里香 Tel090-9572-6939(SMS)

✉ yunae.runa@gmail.com

※ 新入会員以外の方も参加できます。

— ポレポレ会山行 —

● 4月 干支の山 龍護峰(426 ㍎)

美祢市秋吉台

期日 令和6年4月13日(土)

集合 秋芳洞バスターミナル(観光案内所)

駐車場 9時30分

行程 駐車場～秋吉台家族旅行村(10:00)～
龍護峰～おはち山～旅行村(14:00)

解散 14時30分

申込み 丹下洽 090-3732-8843

締切り 3月30日(土)

● 5月 常盤公園ウォーキング(5.7 ㍎)

山口宇部空港バラ園 宇部市

期日 令和6年5月29日(水)

集合 山口宇部空港駐車場 9時30分

行程 空港バラ園(9:30～10:30)～常盤公
園、植物園(10:40～14:00)

解散 14時30分

申込み 丹下洽 090-3732-8843

締切り 5月15日(水)

● 6月 白石山(541 ㍎) 山口市郊外

期日 令和6年6月13日(木)

集合 山口県庁駐車場 9時30分

(JR新山口駅8時30分)

行程 駐車場(9:40)～白石山登山口(10:
00)～山頂(11:30)～登山口(13:
00)

解散 14時

申込み 丹下洽 090-3732-8843

締切り 5月30日(木)

熊野古道集中イベントのお知らせ

(公社)日本山岳会では120周年記念行事のイ
ベントを次のとおり行います。

1 熊野本宮にて集中登山

(1) 集中の日時及び行程

2024年5月18日(土)15時 大斎原に集
中後、紀伊勝浦へバスにて移動し懇親会、宿泊
2024年5月19日(日)午前中、解散

2 上記1への登山コース

(1) 一般募集(個人での参加)

・中辺路、紀伊田辺みち ほか3コース
(5月16日～19日)

(2) 支部パーティでの参加(支部単位で申込み)

・奥駆路コース ほか

3 一般募集の申し込み

(1) 期間 令和6年3月から4月15日

(2) 申込み先 本部山行委員会

4 詳細 本部会報「山」1月号に掲載(予定)
問い合わせ先 sanko@jac.or.jp

会務報告
令和 5 年度 臨時役員会議
事務局

日 時：令和 5 年 10 月 12 日
 13 時 00 分～15 時 00 分 ルームにて
 出席者：馬場、縄田、日向、橋川、竹本、横山、
 清家
 欠席者：町元、榊

議題Ⅰ 榎有恒碑前祭の進め方

- 1 参加者の確認と名札（10 月 12 日現在）
 北九州支部×27 人、食事会×22 人
 山想倶楽部× 9 人、食事会× 9 人
 門司登山の会× 3 人、食事会× 2 人
 計 39 人 計 33 人
- 2 集合場所 8 時 00 分 門司港駅
 橋川さんは車で 8 合目駐車場に行く。
- 3 予算について
 補助金 20,000 円
 (内訳) 献花代 4,000 円、お神酒代 3,000 円
 参加者記念品 13,000 円 (アルファ米)
- 4 次第と各担当者 (司会進行：清家)
 - (1) 支部長挨拶 竹本支部長 10 時 00 分より
 - (2) 来賓挨拶 山岳会本部 桐生恒治副会長
 門司歩こう会 小田幸雄会長
 山想倶楽部 森武昭元会長
 門司区長 代読：清家
 - (3) 花束献花 町元山行委員長
 - (4) 斉 唱 雪山賛歌 (歌詞カード用意)
 指揮 橋川広報委員長

終了 10 時 30 分

議題Ⅱ 門司倶楽部 (2F) の食事会の次第

(司会進行：清家)

- 1 開会の辞 竹本支部長 12 時 00 分
- 2 来賓挨拶と乾杯 坂井広志 (山岳祭プロジェクト
 リーダー)
- 3 会食
- 4 日向前支部長他数名のお言葉
- 5 ウクレレ演奏 野副、町元 山の歌…3 曲
- 6 閉会の辞 横山秀司副支部長 14 時 閉会

※参加者の名札作成は竹本支部長が作成。

※食事会の料理

- ・弁当形式 (予算 5,000 円で下記の飲食代会場
 費等を含む)
- ・飲み物 各自ビール (中瓶) ノンアルコール
 ビール、ウーロン茶各 1 本
 他は持ち込み 日本酒 2 本 (お神酒及び八海山
 (森元会長差し入れ))、焼酎 5 合瓶 2 本 (日
 向さん差し入れ)。持ち込み分はセルフで対応。

議題Ⅲ その他

- 1 これからの支部行事の状況

- (1) 宮崎ウェストン祭
 11 月 3 日 (金) 式 典 15 時 00 分～
 交流会 17 時 00 分～
 11 月 4 日 (土) 祖母山
 以上は暫定。正式決定の連絡待ち。
- (2) 広島支部交流会
 令和 6 年 1 月 27 日～28 日北広島で開催。
 雪山登山、雪上訓練、スキーを計画。
- (3) 忘年登山&忘年の集い
 12 月 9 日 (土) 足立山&戸ノ上山
 居酒屋コールド天 17 時 30 分から 19 時 30 分
 会費 4,000 円
- 2 本部から依頼があった「山」の原稿担当者を決め
 - ① 「苅田アルプス」 提出 10 月 30 日まで
 竹本支部長が担当
 - ② 「嘉穂アルプス」 提出 11 月 25 日まで
 担当を検討中
- 3 支部報 102 号の発送作業の依頼。23 日 (月)
 ルームに納品。その後、発送に取り掛かる。

会務報告
令和 5 年度 第 4 回定例役員会議
事務局

日 時：令和 5 年 11 月 16 日 (木)
 18 時 30 分～ リモート会議
 出席者：竹本、榊、横山、町元、橋川、縄田、日向、
 馬場、清家

議事次第

Ⅰ 支部長挨拶

10 月の榎有恒碑前祭は反省点多々あるが参加者からの好評もあり、成功裏に済むことができました。また、宮崎ウェストン祭、全国支部連絡会議にも参加して他支部との交流を深めることができています。さらに、広島支部交流会のお知らせも来ているので皆様の協力をお願いします。

Ⅱ 報告・連絡・確認事項

1 会員異動

- ・支部友の瓜生さんが来年 3 月で退会。
- ・11 月に安藤匡さんが準会員で入会。

現在会員 57 人 準会員 1 人、支部友 27 人、
 会友 4 人 計 89 人

2 会費納入状況 (縄田財務委員長)

会員 3 人、支部友 2 人、計 5 人が 2 年間未納に
 つき退会の通知を出す予定。

3 10 月～12 月の行事の結果報告及び今後の行
 事予定 (町元山行委員長)

年間行事表をもとに 10 月、11 月の参加人数を
 報告

4 榎有恒碑前祭の反省点と今後の進め方

- ・準備委員会の担当者の業務内容を具体的に決めておく必要があった。
- ・本部からの 20,000 円は記念品代、お神酒代、献花代で使用。
- ・碑前祭の時に私語があり状況認識の出来ない会員がいてまずかった。
- ・門司区長から自然保護活動等の取り組みに協力の話があり、これからの支部活動の足掛かりになるのではないかと。

5 宮崎ウェストン祭の報告

会員 5 人、ビジター 1 人が参加。

6 古道調査報告(榊副支部長)

北九州支部の取組みは本部へ提出済で全て完了。

7 全国自然保護委員会の報告(横山副支部長)

高尾山のロープウェイ近くのホテルにて 8 支部の参加で開催。各支部の活動内容は植物保護、山のトイレ、風力発電設置対策。特に外来種駆除や一般募集で森づくりを実施している内容の報告もあり、支部内にとどまらない外に開かれた取り組みを北九州支部もおおいに参考にすべきと考える。

III 議題

1 新入会員を増やす施策と今後の事業計画

現在、山行委員会が取り組んでいる登山入門講座により新入会員が定着して来た。これは一つの指針になっている。これからも新入会員を増やすことは不可欠な課題であり、行事遂行の中で取り組んでいくことが求められている。

2 広島交流会について

来年の 1 月 27 日(土)、28 日(日)に雪山登山、雪上訓練、スキーの 3 コースで開催。支部会員にメールで通知する。12 月 20 日の締切り。

3 弔電について

北九州支部の内規を別紙(省略)内容ですすめる。

4 忘年登山及び忘年の集いについて

登山については二つの神社の参拝を目的に足立山及び戸ノ上山登山を健脚度により縦走かどうかの計画を立てる。集いではオークションを実施。

5 2023 年年次晩餐会について

12 月 2 日は 6 人が参加予定。当日の支部連絡会議(10 時~12 時)は竹本支部長と清家事務局長が参加。12 月 3 日の記念登山は大山会員が参加。

6 榎有恒文庫の設置について

森元会長からの提案があり取り組むことになる。この件は会員に周知して榎有恒の作品を集める。

IV その他

1 12 月 2 日の支部連絡会議で会員の入会金(20,000 円)についての議題があり、北九州支部意見を次のとおり発表した。

- (1) 入会金のハードルを下げて取り組んでその中で会員の増加を図りたい。減った分は月例山行の参加費を徴収すれば賄える。
 - (2) 補助金の形をとる財務状況ではないから減った分を賄うやり方はやめるべきではないか。
 - (3) 月例山行では回数が少ない年もあるので難しい面があるのではないか。
 - (4) 年齢を 60 歳以上はこれまでどおりで、それ以下の年齢は今からの体制づくりの上で増やしていくために半額の 10,000 円とする。
- 2 嘉穂アルプスの本部への提出原稿は担当者を高畠会員に願います。

次回の役員会の日程

令和 6 年 1 月 18 日(木) 13 時 30 分~
ルームにて

編集後記

令和 6 年最初の北九だよりの第 1 ページに、本年の干支にふさわしい龍と富士山の版画を載せました。提供していただいた伊藤顧問にお礼を申し上げます。

龍は仏教を守る神だそうで、そのためか、日本の各地に龍(竜)のつく地名、山名があります。今年は龍(竜)のつく山を歩いてみるのはどうでしょう。また、名前に龍(竜)の字のつく花(竜胆の仲間、銀竜草など)を探しに行ってもよし。会員それぞれが新鮮な感動を求め、心ときめかせながら今年も大いに山を楽しみましょう。(J.H.)